深い学びのために

学習のポイントの解答例

1 **本文を書き下し文にしてみよう。**

【答】「訓読」参照。

▼ポイント▲　会話文の「『……。』と。」の形に注意する。また、「之」が指示代名詞のときには漢字のままで「之」にし、助詞のときは「の」とすることに注意。再読文字は二度目の読みを平仮名で書く。現代日本語の表記でも、付属語（助詞・助動詞）はひらがなで書かれることを紹介するとよい。

2 **「蛇足」は、どのような失敗談であるのか、説明してみよう。**

【答】余分なものを付け加えようとしたための失敗。

▼ポイント▲　足が付いたものは蛇とはいえないことがポイント。足を付け始めたところで蛇でないものになってしまったわけで、「蛇の絵を描く」という競争の趣旨からすれば、勝者としての権利を失うこととなる。

言葉と表現の解答例

1 **「蛇足」という言葉は、現在どのような意味で用いられているか、辞書で調べてみよう。**

【答】余計なもの。なくてもよいむだなもの。

▼ポイント▲　国語辞典・漢和辞典を引かせてもよいが、漢文の窓②「お米の話」を参照することで、文脈から意味を推測させてもよい。

言語活動の解答例

1 **身近な「蛇足」の例を、できるだけ多くあげてみよう。**

【答】この素晴らしい作品に手を入れるなど、蛇足の極みだ。

▼ポイント▲　「学習のポイント」2と「言葉と表現」1を踏まえれば、生徒自身の知識や体験をもとに「蛇足」の例をあげることは難しくないだろう。「教員主導でクラス全員から解答を募る」方法や、「グループで話し合わせた意見を全体で共有する」方法などが考えられよう。一見すると「蛇足」の例とは分からない解答もあるだろうが、その場合は教員が否定をするのではなく、なぜ「蛇足」の例と言えるのか、解答した生徒に説明をさせるとよい。

この活動において、教員は生徒の活発な発言を促す環境を整えるよう心がけたい。

また、「解説」にあげた『戦国策』の前後の文章を生徒に配付し、「蛇足」の寓話がどのような意図で用いられたのか、さらにはもし自分だったら、どのような場面で「蛇足」の寓話を用いるか、という発問をし、発展的学習に広げてもよい。

（宮　利政）